

■米国：地域送電機関 PJM、2021－2022 年の容量オークション結果を発表

米国東部の地域送電機関（RTO）である PJM は 2018 年 5 月 23 日、3 年後（2021 年 6 月 1 日から 2022 年 5 月 31 日まで）の必要電力を賄うべく実施した容量オークションの結果を公表した。デマンドレスポンス、効率向上施策、再エネの提案も昨年度より増え、容量オークション制度により、系統の信頼性を維持し多様性に富み競争力のある電源構成が達成できるとした。送電制約の関係で幾つかの地区では落札金額が高くなっており、PJM の大部分の地区としては、140 ドル/MW-Day となり、昨年価格の 76.53 ドル/MW-Day より上昇した。電力量価格が長期間低下しているため、容量市場での収益を増やしたいとの発電業者側の市況感、容量の減少、新規参入者の減少等が要因ではないかと PJM は発表している。電源別の落札規模では昨年より石炭火力が 50 万 kW 増える一方、原子力は約 740 万 kW 減少した。今回のオークションで確保された容量は 21.5%の予備率に相当し、PJM は適切な予備率の確保に繋がっているとした。